



杉並区立  
浜田山小学校

学校だより第556号  
令和3年度12月号

# はまだやま

校長 伊勢 明子  
副校長 越山 宗治

## 「心のゆとり」

副校長 越山 宗治

学芸会ではたくさんのご参観、ありがとうございます。子どもたちもとても頑張っていました。成功できたのも、ご家庭のご協力の賜物と感謝しております。また、受付等へのご協力も大変助かりました。受付後、譲り合いながら、ゆっくり歩いて進まれる姿を見て、浜田山小の保護者の方はすごいと感じました。皆様のようなゆとりある心を大切にしたいものです。

さて、今年も終わりが近付き、師走を迎えようとしています。師も走るくらい忙しい時期ということです。学校では大きな行事を終えて、少しひと段落している部分もありますが、これからは、二学期のまとめの時期として、様々なことのまとめで忙しくなります。子どもたちは、テストや課題の仕上げ等で忙しくなります。そして、そんな忙しさの中では、ケンカや事故が起きることがあります。あれもこれもやらなければと思っているところに話しかけられて、つい怒ってしまったり、部屋の中を急いで移動したときに、角に足の小指をぶつけて、痛い思いをしたりした人も多いいと思います。それは、ほんのちょっとした気配りや注意が足りなかったために起こることです。言い古されたことですが、「忙しい」は「心を亡くす」と書きます。せつかくのまとめの時期なので、心を亡くすことなく、常に心を保って様々なことをしっかりと終わらせていきたいものです。

以前のことで、あまりにも忙しい時の仕事帰りに、フツと匂った香りに誘われて顔を上げて見ると、道路脇の杏が綺麗な花をたくさん咲かせていました。当然、昨日、今日咲いたわけではないのですが、私はずっと気が付くことができませんでした。たぶん、あまりの忙しさに疲れて、下を向いて歩いていたのだと思います。そしてそのとき、「ああ、自分はこんな綺麗なものにも気が付かないで、損をしていたな。」と感じました。心を亡くすと、季節の移ろいにさえ気付けないと思うと、恐ろしい気がしました。それからは、意識して顔を上げて、周囲の風景を気に留めながら歩くようにしています。すると、自然と心にゆとりが生まれ、周りの人に対しても寛容に接することができるようになりました。

人によって心を保つ方法はいろいろあると思います。しかし、まず大切なのは、忙しくて、気配りや注意を払うことができなくなった自分に気付き、反省して、常にゆとりをもった状態で物事に向かおうとすることではないでしょうか。そしてゆとりある心で臨んだ物事には、必ず結果も付いてくると信じています。子どもたちも良いまとめをして、1年の締めくくりを心穏やかに迎えていけるよう、頑張りたいと思います。

### — 12月の生活目標 — 【整とん名人になろう 物を大切にしよう】

12月に入ると、寒さも一段と厳しくなり上着などの防寒具を着用して登校するようになります。また、2学期も終わりに近付き、児童の机やロッカーには多くの物が保管されていると思います。自分の管理するものが増えるからか、職員室には記名がない落とし物が多く届けられています。(落とし物に気が付かないことが多いようです。)

2学期も残りわずかです。「自分の持ち物に記名し、大切に扱うことができたかどうか」、「身の回りの整理・整頓を意識できたかどうか」、「みんなで使う場所や物を大切に使うことができたかどうか」など、学校生活を振り返り、気持ちよく生活できるようにしていきたいと思います。3学期は今以上に、自分のものやみんなで使うものを大切にすることを意識させ、学校全体で整理・整頓にすすんで取り組むことができるようにしていきます。